

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

奥の細道  
むすびの地



特選

令和六年一月度 入賞句一覧

投句数

六百三句

田中 青志 選

池の面に鳳凰堂の冬の月

東京都足立区

木幡

忠文

平等院の阿弥陀堂。池の向こう側から阿弥陀様を拝顔できるなど、お札にもなった鳳凰堂に、冬の月が浮かんでいるという、神々しい景を捉えた一句。鳳凰堂と冬の月の敬虔さ、蛇が一気に渡るといふ有名な一句もあつて、類想が懸念されるが、それとは違う厳肅さがある。澄み切つた冬の夜の池に映る月の鋼のような描写は、見事と言う他なしである。

鮫鱧の顔に似合わぬ潔さ

本巢市

土川

楽人

鮫鱧が店頭に吊るされている。その厳つい顔に悪びれぬ姿には、晒し首ではない潔さがあるという。潔いには清々しい、潔白で汚れた様ではないという意味があるが、その通り。堂々と吊るされていて、往生際の醜さは微塵も感じられないところは、往生際の悪い人間さまへの見本のようであると言いきすぎであろうか。

冬うらら光にさらす嬰の足

神奈川県相模原市

中村

光枝

光とはお日様ということ。日の光は命のエネルギーとも言われる如く、生物にはなくてはならぬもの。冬の衣類に包まれた嬰には不可欠なエネルギー。そのふつくらとした日の光を浴びたことがないようなびちびちのはだに当ててやるのは、命を与えてやるくらいにの価値、愛情の付与。喜ぶ嬰の足の躍動までも見えてくるよろしさがあ

秀逸

ままならぬ暮しでありぬ福寿草

東京都北区

菱沼

多美子

十方へ張る雪吊のひかり合ふ

安八郡輪之内町

野村

照子

団欒の窓辺明るし福寿草

大垣市

岡田

あや子

堰落ちる水はまつ白冬の川

奈良県奈良市

やまとなでしこ

予約席ほんのり照らす聖樹の灯

大垣市

早筈

千恵子

寒造り樽に歴史のありにけり

三重県四日市市

後藤

允孝

家一つ満艦飾にクリスマス

静岡県藤枝市

山本

紫苑

たとふれば冬の日溜まり笠智衆

愛知県豊田市

城山

悠水

職歴を端折る履歴書帰り花

滋賀県大津市

近江

堇花

冬木立伐らればかんと空真青

東京都武蔵野市

木嶋

純子

入選

腕白な子の抽斗に蟬の殻

大垣市

立木 絹代

赤錆びたガードレールや冬ざるる

大垣市

立川 昌子

屋根瓦ぬれてきらきら片時雨

不破郡垂井町

久保田 紘義

赤あお黄落葉集めて宮掃除

大垣市

石垣 珠泉

後手に麦踏む爺や伊吹山

大垣市

樋口 絹子

裸木の美しき線描きけり

大垣市

水野 君子

早朝の犬と主と白い息

大垣市

宮脇 和子

背中迄届く手欲しや着ぶくれて

愛知県北名古屋市

和田 祐子

初参り平和よ続け孫の世も

大垣市

安田 むつこ

肩越しにそつとのぞきし初みくじ

大垣市

平野 きぬよ

冬夕焼消えて真白な掛大根

福井県敦賀市

山田 美千代

双六のなつかしきかな今昔

大垣市

宇津 香代子

水仙に力たまわる余生かな

大垣市

小寺 はる子

来年も生きる心算の三十日そば

千葉県八千代市

菅野 三男

素通りの郵便バイク片時雨

不破郡垂井町

石井 直実

懐かしき祖母の円き背ちやんちやんこ

福岡県福岡市

大津 英世

一人ぼつちは僕だけじゃない聖夜

埼玉県東松山市

谷本 だつく

足元を照らす古刹の石露の花

大垣市

田口 貞善

定年のない野良着着て熟柿もぐ

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

雪をのせ貨物列車の延々と

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

一般の部

選者吟

青春は齡にあらざ梅の花

青 志

